

製品名: EF-G2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab10322**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	87kDa

抗原情報

遺伝子名	GFM2
別名	GFM2; EFG2; MSTP027; Ribosome-releasing factor 2; mitochondrial; RRF2mt; Elongation factor G 2, mitochondrial; EF-G2mt; mEF-G 2; Elongation factor G2; hEFG2
遺伝子 ID	84340.0
SwissProt ID	Q969S9
免疫原	抗血清はヒト GFM2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 441-490

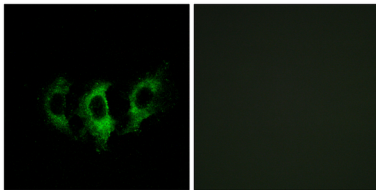
背景

真核生物は、細胞質とミトコンドリアにそれぞれ1つずつ、2つのタンパク質翻訳系を有する。ミトコンドリア翻訳はミトコンドリア

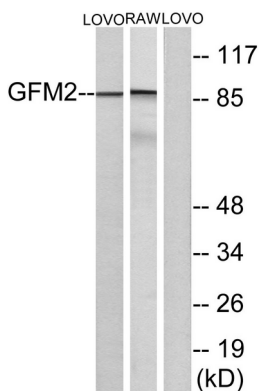
機能の維持に不可欠であり、この系の変異は呼吸鎖酸化リン酸化系の破綻とミトコンドリア DNA の維持障害につながる。この遺伝子は、ミトコンドリア翻訳伸長因子の 1 つをコードしている。この因子は、メッセンジャー RNA からリボソームを分解することでミトコンドリア翻訳の終結に関与する GTPase である。正常なミトコンドリア機能の調節、およびミトコンドリア機能不全に起因する疾患状態におけるその役割は不明である。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが生じる。[RefSeq 提供、2013 年 7 月]、翻訳、ミトコンドリアの構成、細胞成分の分解、ミトコンドリアの翻訳、リボソームの分解、高分子複合体の分解、リボ核タンパク質複合体の分解、細胞高分子複合体サブユニットの構成、細胞高分子複合体の分解、高分子複合体サブユニットの構成、

研究分野

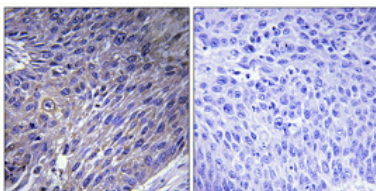
画像データ



GFM2 抗体を用いた A549 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



GFM2 抗体を用いた LOVO 細胞および RAW264.7 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



パラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。